

令和4年度小笠原諸島世界自然遺産地域連絡会議 意見対応

※青字は会議内での回答

No.	意見	対応
1	管理計画の見直しについて	
①	管理計画改定骨子案概要について	
1	・現時点での基本方針素案を見ると、外来種の根絶は諦めているようにも見えるが、既侵入の外来種についてもきちんと力を入れていてもらいたい。	今後10年間を見据えた長期的な全体計画であることを踏まえ、現状の記述とする。
2	・生態系の現状を踏まえると根絶は理想であって、もう少し現実を見据えた内容とする方が良いのではないか。	
3	・管理計画の計画期間が10年間であることを考慮すると、大きな干ばつや台風は確実にあるという前提で計画を作っていただきたい。	ご意見を踏まえ、基本方針1)①の基本的考え方の表現を見直しました。
4	・未侵入・未定着の侵略的外来種の侵入・拡散防止は、技術的な研究等に力点が置かれているように見えるが、これまでの10年を振り返ると、研究技術の問題もさることながら、体制や制度の問題が大きいのではないか。	今のたたき台では、技術的な部分にフォーカスしているが、制度や運用についても記述を入れるという点、事務局には留意して検討を進めていてもらいたい。(織委員) 基本方針1)②の基本的考え方において、新たな資金確保や体制整備について言及しています。
②	第3回管理計画見直し作業部会結果を踏まえた修正事項	
5	・「世界遺産ブランド」という言葉はかなり広義な意味を持つため、世界遺産ブランドとは具体的に何なのか、改めて議論する必要がある。	エコツーリズムという言葉は、どこか使い古された言葉のように感じる部分がある。管理計画の基本方針の中で、遺産価値を持続的に維持していくという意味で、レスポンスブルツアー、サイエンティフィックツアーも含めて、様々なツアーがある中で、エコツーリズムという言葉を使い続けることについては、改めて検討する必要があると思う。(織委員)
6	・管理計画が10年先を見据えた計画書であることを踏まえると、「エコツーリズム」という言葉を使い続けるのか、もう一度考えた方が良く思う。他の表現があっても良いのではないか。	「世界遺産ブランド」の定義や推進のための方策については、次年度以降の地域連絡会議や勉強会等において、丁寧に議論を深めていきたいと考えています。 管理計画においては、「世界自然遺産」という価値やネームバリューを活用する、という考え方を明言するに留めたいと思います。 「エコツーリズム」については、小笠原の観光の象徴的なキーワードであり、対外的にも分かりやすい表現であることから、今回改定ではこのままとさせていただきます。

No.	意見	対応
7	<p>・遺産保全に係る各種ルールや配慮事項に関する説明・普及啓発に関する記述の強化を検討とあるが、そもそも制限内容の変更が求められているのではないか。</p>	<p>作業部会において、ルールの徹底についてのご意見をいただいていたため、その点については何らかの記載の追加をしたいと考えている。同時に、現行の規制内容が適切なのか、過剰な部分はないのか、といったご意見もいただいているため、管理の方策の部分に落とし込めるかどうか、現時点では即答が難しいが、制度を適正に運用する等の表現は工夫していきたい。（小笠原自然保護官事務所）</p> <p>遺産保全のために設定された行動・行為制限等の必要性を明確にしていくこと、過度な制限にならないよう利用と保全のバランスを取っていくといったことは、管理計画に反映できるのではないかと。（織委員）</p> <p>管理の方策(2)2の◆現況と課題に、これまで適切にエコツーリズムが推進されてきたこと、現在の各種自主ルールは遺産登録前後に制定されたものも多く、点検、見直しが必要であることを追記しました。</p> <p>なお、ルールの点検や見直しの実施については、現行計画においても今後の対応方針として書かれていますので、◆管理の方策内容はそのままとなっています。</p>
8	<p>・観光客からの協力金の徴収については、観光協会の理事の間でも賛否両論あるが、島外居住者の反応を見ると、導入に当たって大きな問題はないようにも思える。</p>	<p>協力金については、富士山、知床、奄美等で実施されており、大学の研究等によるアンケート調査も行われている。それによると、協力金の金額についても価値観の分かれるところである。小笠原については、もともと旅費が高いことから、観光客の意識もある程度高いのではないかと予想する。レスポンスブルツーリズムの具体的なイメージについて、皆さんで十分に議論いただけると良いと思う。（織委員）</p>
9	<p>・新たな資金確保にあたって、小笠原村にはふるさと納税に力を入れるなど、ぜひ先頭に立って進めてもらいたい。</p>	<p>協力金や入島税に関する議論は、以前から行われてきたが、村では協力金等の導入ではなくふるさと納税の強化を選択した。今後は船会社や観光協会にも協力いただき、観光客に対して現地到着後の寄付を呼びかけることで、金額を伸ばしていきたいと考えている。強制ではなく自らの意思で資金提供いただく方向性していきたい。（小笠原村）</p> <p>観光客からの協力金の徴収については、丁寧な議論が必要と思いますので、管理計画での明言は避けていますが、管理の方策(3)2)において、◆管理の方策として「資金確保、体制整備に向けた具体的な検討と取組への着手」を明記しました。</p>

No.	意見	対応
10	<ul style="list-style-type: none"> 属島で多数実施されている保全事業の状況は、島民には見えづらい部分がある。現状、兄島では最も多くの事業が行われており、工作物も多数設置されているが、台風で破損したり、担当が交代したりして、放置されているゴミも多い。これらへの対応について、設置した工作物の維持管理についても、管理計画に反映いただきたい。 	<p>行政が実施した保全事業であれば、ゴミの処理まで含めて行政が責任を持って行うべきと考える。一方ですぐの撤去が難しく、そのまま残置していたり、残置すらできておらず飛散していたりするものがある現状は把握している。個別具体の事象のため、基本方針ではなく管理の方策に反映できればと思う。保全の事業がマイナスにならないように、少しでもマイナスの部分減らせるように、といった方向性がわかる書きぶりになりたい。 (小笠原自然保護官事務所)</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> 今後の地域参画の方向性を関係者間で共有するためにも、主語や地域との役割分担はメリハリをつけて書くべきである。例えば、「生態系保全との関わりで生じる生活や農業等への影響の回避や低減への支援」であれば、管理機関は「影響を回避する」と明確に示すべきであると考え 	<p>今後、表現を精査する段階で、参考とさせていただきます。</p>
12	<ul style="list-style-type: none"> 小笠原が地域外から見てどのような魅力を持っていて、どのように大事にされてきたのか、イルカのエコツアーリズムをはじめとしたこれまでの経緯を振り返って、小笠原ブランドを見つめていけると良いのではない 	<p>3(4)社会環境に、これまでのエコツアーリズム等の取組等を追記予定です。</p>
13	<ul style="list-style-type: none"> 母島については、誇りを感じられるような、陸の魅力が伝わるような場の整備も推進してもらいたい。実態が伴わない中で「誇り」と言っても理念的過ぎて、青い海、クジラなどが遺産価値だと勘違いされてしまうのではないかと 	<p>遺産価値を展示や説明で紹介するだけでなく、一般観光客にも実際に触れてもらえる、体験できる場所を設けるというのは、小笠原諸島全体での課題であり、特に母島では課題が大きいと思う。科学委員会では、母島施設の整備についてもご意見をいただいている。具体的な方策については今後検討が必要だが、いただいた視点は管理計画に反映できればと思う。 (小笠原自然保護官事務所) アクションプランにおいて、新夕日ヶ丘の活用について記載予定です。</p>